

中野駅新聞

発行：
シイビブリア
編集部

※この記事は
中央図書館が担当
しました。

中央線 反対 運動

時は文明開化を経た1889（明治22）年4月11日。中央線は「甲武鉄道」という名で新宿―立川間で開通しました。今ではわたしたちの生活になくはならない中央線ですが、その始まりは歓迎ムードだけではなかったことを、みなさんはご存知でしょうか。



明治18年 鉄道敷設反対の嘆願書
(提供：中野区立歴史民俗資料館)

「中野」は中央線最古の駅

開通が決まった甲武鉄道の次の課題は駅の開設です。この頃になると、駅開設に好意的、むしろ設置の要望が各地で強くなっていました。

甲武鉄道側は、ふさわしい設置場所として、以下の条件を満たすことを挙げました。第一の条件は「人家の多い甲州街道、青梅街道の人々にも便利な場所であること」です。集落の少ない一直線のルートに敷設が決まったため、できるだけ多くの乗客が見込める場所に開設したいという思惑があったからです。

第二に「各駅の間がほぼ同じ距離であること」が挙げられます。想定距離は各区間3マイル(約4・8km)で、これは鉄道が単線のため列車をすれ違わせるためにも必要な対策でした。

第三の条件は「観光地があり、一定数の見物客が見込めること」です。

観光地としての中野

都心からの観光客を呼び込めれば、安定した収益が得られると踏んだのです。そして、始発駅・新宿の次の駅として白羽の矢が立ったのが中野でした。

中野村(当時)は新宿から2・75マ

中野村周辺、住民の反対根強く…

甲武鉄道敷設の発案当初は、馬車をレール上に走らせる馬車鉄道を開通させる計画でした。しかし、1885（明治18）年の5月25日、5人の実業家によって東京府知事宛てに計画が出願された後、同年8月に、中野村を含む周辺9村から反対の陳情が寄せられます。近隣住民は、耕地の分断等の農業への悪影響や、甲州青梅街道の利用者が減少することで、地域に経済的損失が生じるのではと、強い懸念を抱いたのです。

その後1886（明治19）年、鉄道の動力が馬から蒸気に変更された後も反対運動は続きます。明治20年頃、鉄道を青梅街道の北側、現大久保通りとの間を通す新案が示されましたが、「鉄道は村を衰退せしむ」として住民は反対の姿勢を崩しませんでした。こうした反対運動と、運用コストを鑑み、甲武鉄道は計画を大きく変更し、住民の抵抗が少ないルートを考案します。それが現在の中央線が通る、東中野あたりから立川まで一直線のルートです。勾配や曲線を避けて鉄道を通せば、燃料も少なく済み、速度も出せます。その上、人の少ない原野を通るため、土地の買収費用も安くなり、結果的に理にかなったものになりました。

中野駅のお引越し



昭和3年 中野駅北口広場拡張工事 (提供：中野区)

甲武鉄道が開通、その後明治30年代に東京中心への路線拡大と輸送力が強化されたことが主な要因となり、中野周辺は都市化への道を歩み始めます。1897（明治30）年には、中野駅の北側の土地へ戦時に物資補給用の鉄道敷設をする陸軍の「鉄道大隊」が東京の牛込より転営してきます。それ以降、駅周辺が発展し、桃園通りには郵便局や金融機関、商店などが軒を連ね、駅前商店街としてにぎわいを見せるようになりました。

交通の便の発達、地域の発展に伴い、中野駅の乗客数も増加してきます。さらに1923（大正12）年の関東大震災後は、人口の郊外流出によって、その

この直線ルートは、明治20年末に採用され、翌21年3月、正式に敷設の許可が下りました。同年7月に工事が始まり、そこからわずか1年足らずという驚きの速さで開通したのです。根強い反対運動にあった甲武鉄道でしたが、中野駅周辺はその後「ベッドタウン」として住宅や商店が増加し、目覚ましい発展を遂げていきます。こうした鉄道の有用性に当時の民衆は気づきようもなく、後年、中野町史(昭和9年刊)には以下のように記されています。



明治40年 中野駅 (提供：中野区)

増加に拍車がかかりました。しかし、駅周辺の北側は軍事施設のため駅前空間がなく、南側はすでに桃園通り商店街が発展していたため、中野駅は周辺に十分なスペースが取れず、乗客の急増に対応できなくなっていました。

そこで、敷地に余裕のあった東側に駅を移す計画が立てられました。移転先の南北には十分な駅前スペースを設け、中野通りは南に延長し鉄道の下をくぐらせることになりました。こうして南口広場が東西約130m、南北約150m、深さ約4mにわたって掘り下げられるという大土木工事が行われます。そして1929（昭和4）年11月1日、中野駅は現在の場所に移設されたのです。

参考文献

- 『鉄道にみる中野の歴史』中野区立歴史民俗資料館、中野区、1998年、所蔵全館(分室を除く)
- 『中野区民生活史 第1巻』中野区民生活史編集委員会／編、中野区、1982年、所蔵全館(分室を除く)
- 『中也と中野と中央線』中野区立中央図書館／編、中野区立中央図書館、2019年
- 『中野全館(分室を除く)』
- 『中野のまち 今・昔』公社ニュース・まちづくり館／編、中野区、所蔵中央
- 『中央線誕生』中村建治／著、交通新聞社、2016年、所蔵中央
- 『中央線がなかったら 見えてくる東京の古層』陣内秀信・三浦展／編著、2022年、所蔵中央・鷺宮・中野東

※本誌の掲載内容・お知らせ情報は記事作成当時のものです。